

日本看護歴史学会 會報

日本看護
歴史学会
第70号
2018年7月15日

日本看護歴史学会第32回学術集会のご案内

ナイチンゲール看護のこころ今に伝える —看護・福祉思想と教育—

日 時：2018年（平成30年）8月24日（金）・25日（土）
会 場：広島文化学園大学 呉・阿賀キャンパス（広島県呉市）
学術集会長：佐々木秀美（広島文化学園大学看護学部）



第32回日本看護歴史学会学術集会を広島県呉市で開催いたします。

歴史研究は“古きを訪ねて新しきを知る”であります。つまり、現在の起こっていることの課題認識を解決あるいは未来に向かって何をなすべきかについて過去に遡って検証し、その答えを導き出すこと、すなわち、“温故知新”であります。

広島と言えば、平和記念公園内に戦争の傷跡として原爆ドームが厳然として残っており、核兵器被害の悲惨な体験をした歴史的な場所です。平成30年は戦後72周年です。戦争体験者も少なくなっている今日ですが、広島で日本看護歴史学会会員の皆様の歴史検証を通して、私たちの日常生活の安寧と幸福実現のために看護ができることは何かを、原点に戻って論じ合える機会になればと考えています。

会員の皆様にはフローレンス・ナイチンゲール研究で顕著なご功績を残され、また、現在も研究中の方々が多くおられます。その中で、誠にお恥ずかしい限りではございますが、私の精一杯のナイチンゲール研究を通して感じておりますナイチンゲールの看護のこころ、その心が看護界の隅々まで理解され、看護実践につながっているのかを問う機会あるいはご

意見を頂く機会にできればと考え、本年度のメインテーマを「ナイチンゲール看護のこころ今に伝える—看護・福祉思想と教育—」としました。

教育講演には、ナイチンゲールが看護について学んだとされるドイツカイゼルスウェルト学園の現在地に何度も足を運び、看護の歴史研究に貢献された真壁伍郎先生、福祉の立場からは、戦後、カイゼルスウェルト学園のディアコニッセ母の家の方式を導入し、福祉の発展に貢献した浜松聖隷の平井章先生、医療の立場からは、広島県における原爆医療の歴史の変遷を鎌田七男先生、そして教育界からは、科学者は歴史にどう責任を取るかについて、広島文化学園大学の小笠原道雄先生にご講演をさせていただきます。

19世紀中庸、ナイチンゲールが創設した看護という仕事、粗悪であった病院看護を良くし、地域の貧しい方々への看護職の地域貢献は、地域の方々が“健康”で幸せに暮らすためのいわゆる地域福祉貢献活動でありました。そこで、教育講演と会員の皆様の多様な歴史研究を通して、今日、問われております医療・福祉・教育の協働という言葉の“究理実践”に向けての検証・検討の機会にし、活発な議論ができますことを切に希望しております。

日程は、平成30年の8月24日（金）、25日（土）で、場所は、広島文化学園大学呉・阿賀キャンパスでの開催です。呉市は広島駅から呉線で45分のところに位置しております。少々、離れた地域での開催ではありますが、精いっぱい準備をしておりますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

理事会セッション 1**看護における歴史研究（第4回）「看護思想史へのアプローチ」**

講師 川原由佳里（日本赤十字看護大学）

司会 鈴木 紀子・丸山マサ美（研究活動推進委員会）

研究活動推進委員会では、学会員の皆様の研究力の向上を目指し、5年間の研修会計画を立て、今年度は4年目となります。今回は、川原由佳里先生による「看護思想史」をテーマとした研修会を開催します。講演では副題を「19世紀以降の科学・哲学・世界思想と看護学」

として、看護や看護が対象とする人間についての捉え方が関連諸科学、広くは世界思想に影響を受けて発展してきたプロセスを振り返り、今日ふたたび看護において思想を発展させていく必要と可能性についてお話いただく予定です。

理事会セッション 2**准看護師養成所における教育の現状—調査報告—**

話題提供者：伊東美奈子（東京医療保健大学）

司会：佐藤公美子・城丸 瑞恵（特別委員会）

准看護師養成所のカリキュラムは、看護師養成所と同様に「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」で規定されています。医療ニーズの増大や地域包括ケアの推進といった時代の変化を受け、看護師養成課程はカリキュラム改正によってその教育内容が柔軟に変更されていますが、准看護師養成課程のカリキュ

ラムは平成11年を最後に改定が行われていません。

そこで、本セッションでは話題提供者として伊東美奈子先生に、准看護師養成所で行われている教育の実態を把握する目的で実施した、「准看護師養成所における教育に関する調査」の結果についてご報告を頂き、意見交換の場としたいと思います。

理事会セッション 3**戦争と看護「被爆の記憶を風化させないために」**

話題提供者：岡田恵美子

村上須賀子（広島文化学園大学）

司会：川嶋みどり（日本看護歴史学会監事）

学術集会で毎回開催をしている「戦争と看護」の理事会セッションです。1945年8月6日、アメリカ軍による世界最初の原子爆弾が広島、続いて8月9日に長崎に落とされました。この被害の大きさと悲惨な状況は、これまで多くの人びとによって語り伝えられて参りました。今回は、被爆体験された岡田恵美子さんと、

医療ソーシャル・ワーカーとして被爆者の相談・支援をしてきた村上須賀子先生の証言をもとに、人びとの生命と尊厳を守る看護職者として、非人間的で悲惨な被爆の実態を歴史のひだとして語り継ぐ意味を共有し、実りある討論にしたいと考えています。

日本看護歴史学会第32回学術集会プログラム

日時	プログラム		
8月24日 (金)	9:10~	開場・受付	
	9:40~	オープニング	音楽演奏(広島文化学園大学学芸学部音楽学科)
	10:10~	ご挨拶	森元 弘志氏(学校法人 広島文化学園 理事長)
	10:15~	来賓祝辞	川本ひとみ氏(公益社団法人 広島県看護協会 会長)
	10:20~	学術集会長講演	ナイチンゲール看護のこころ今に伝えるー看護・福祉思想と教育ー 佐々木秀美(広島文化学園大学 学長補佐 大学院看護学研究科教授)
	11:05~	教育講演 I	看護の歴史パノラマから見えてくるもの ー看護師の古いスライド(ICRC作)を手がかりにー 真壁 伍郎(新潟大学名誉教授)
	12:10~	総会	
	13:00~	教育講演 II	長谷川保の看護・福祉思想とその精神(こころ)の継承 平井 章(社会福祉法人 十字の園 理事長)
	14:10~	演題発表	示説 1 群 2 群 3 群
		教育講演 III	歴史と責任ー科学者は歴史にどう責任を取るかー 小笠原道雄(広島文化学園大学大学院教育学研究科教授)
理事会セッション 1		研究活動推進委員会企画 看護における歴史研究(第4回) 「看護思想史へのアプローチー19世紀以降の科学・哲学・世界思想と看護学ー」 講師:川原由佳里(日本赤十字看護大学准教授)	
15:30~	演題発表	口演 1 群 口演 2 群	
	理事会セッション 2	特別委員会企画「准看護師養成所における教育の現状ー調査報告ー」 話題提供者:伊東美奈子(東京医療保健大学講師)	
	テーマセッション	直筆を通してこそわかるナイチンゲールの実像ーナイチンゲールの8つの顔ー 金井 一薫(徳島文理大学大学院看護学研究科教授)	
18:30~	懇親会	会場 森澤ホテル	
8月25日 (土)	9:00~	受付開始	
	9:30~	教育講演 IV	広島県における原爆医療の歴史の変遷 鎌田 七男(広島大学名誉教授 被ばく高齢者事業団 元理事長)
		演題発表	口演 4 群 示説 4 群 5 群 6 群 示説 7 群 8 群 9 群
	10:40~	理事会セッション 3	理事会企画 戦争と看護「被爆の記憶を風化させないために」 話題提供者:岡田恵美子, 村上須賀子(広島文化学園大学人間健康学部教授) 司会:川嶋みどり(日本看護歴史学会監事・前理事長)
12:10~	次期学術集会長挨拶	川原由佳里(日本赤十字看護大学准教授)	

参加費について

- 事前申込期間:平成30年6月末日まで、それ以降は当日受付となります。
- 当日参加費:会員9,000円 非会員9,000円 学生500円(大学院生は除く)
*学生は当日、学生証をご提示ください。
- 懇親会参加費:5,000円(当日申込も可能)

宿泊・学会1日目の昼食について

- 事務局では、宿泊の手配はしておりません。宿泊施設は呉駅近辺が便利ですが限られておりますので、早めの手配をお願いいたします。
- 学会1日目(8月24日)のお弁当の申込は6月末日で終了いたしました。当日、会場での昼食販売はありません。お弁当の事前申込をされない方は、お弁当をご持参ください。

ランチョンセミナーについて

- 日時:学会1日目(8月24日)12:10~ テーマ「良質な睡眠について」
先着60名まで。第32回学術集会ホームページからお申込ください。

交通アクセス

■鉄道

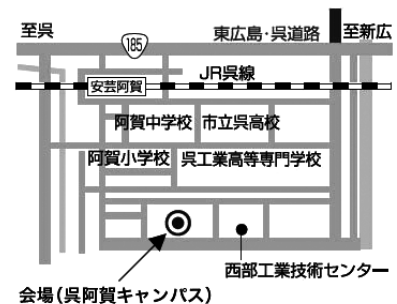
呉線各駅停車または安芸路ライナー(快速)で阿賀駅下車 徒歩8分 タクシー6分
呉駅下車 タクシー15分

■バス

広島バスセンター発 【クレアライン】呉本通り6丁目下車 タクシー10分
阿賀駅下車 徒歩8分

問い合わせ先

広島文化学園大学 呉・阿賀キャンパス 日本看護歴史学会第32回学術集会事務局
住所:〒737-0004 広島市呉市阿賀南2-10-3
メールアドレス: kangorekishi32@hbg.ac.jp



特別寄稿 刊行記念シンポジウム 「戦争と性暴力の比較史へ向けて」に参加して

鈴木紀子（日本看護歴史学会理事）

看護歴史研究では、女性史、社会学、歴史学分野の分析視点は欠かせない。2018年5月13日（日）上智大学四谷キャンパスで開催された、上野千鶴子氏（社会学、ジェンダー研究）が編者（他2名）である、『戦争と性暴力の比較史へ向けて』（岩波書店、2018年、344頁、2900円）の刊行記念シンポジウムに、友人と参加してきた。

同書は、編者の他に9名の執筆者により、各専門分野からの分析視点で書かれた比較史の1冊である。執筆者らは戦争と性暴力の問題を、「記録に残らない」「語ることもできない」「語り得ない記憶」が、戦争研究として成立するのかと

いう、新たな学問に挑戦している。また歴史学への挑戦として、オーラルヒストリーによる記録が、2次資料として研究が成り立つのか、という歴史学への挑戦も共通テーマとなっていた。

シンポジウムでは、5名の研究者からのコメントがあり、「エイジェンシー（行為主体性）」の概念について、アカデミックな討論が行われた。「歴史に禁じられた問いはない」というお話もあった。専門家が鋭い分析視点で問い、各自の立ち位置から発せられる言葉は、知的好奇心が大きい刺激され、自分の概念の枠組みが広がった時間でした。

新入会員紹介(敬称略)

* () 内は会員番号 2017年11月～2018年5月入会

川田 綾子 (18001)	進藤 美樹 (18002)
岩本 由美 (18003)	金沢 寛 (18004)
小柳みな子 (18005)	ハーディング優子 (18006)
菊池美智子 (18007)	太田 尚子 (18008)
榎 久仁裕 (18009)	岡本 陽子 (18010)
伊藤ひかる (18011)	江頭 典江 (18012)
廣田美喜子 (18013)	佐藤 敦子 (18014)
御村ひさ子 (18015)	石塚 睦子 (18016)
岡 和子 (18017)	藤尾 順子 (18018)
山本 智子 (18019)	内山 孝子 (18020)
高野 幸子 (18021)	上村 千鶴 (18022)
田口 玲子 (18023)	佐々木律子 (18024)
宝田 慶子 (18025)	西村眞佐乃 (18026)
上田ゆかり (18027)	吉田 順子 (18028)
魚崎 須美 (18029)	山内 京子 (18030)
石川 孝則 (18031)	香川 明花 (18032)
平岡 正史 (18033)	武智 朋子 (18034)

お知らせ

■事務局から

平成30年度会員動向(2018年5月末現在)

1. 会員数	332名
2. 入会者	34名
3. 退会者	26名

■事務局移転のお知らせ

会員管理事務局が2018年1月から移転しております。

住所変更・退会届等の連絡は

〒737-0004 広島県呉市阿賀南2-10-3
 広島文化学園大学看護学部内
 日本看護歴史学会 事務局
 FAX: 0823-74-5722
 e-mail:katoi@hbg.ac.jp をお願いいたします。

西日本の豪雨被害に遭われました会員の皆様に対し、心からお見舞いを申し上げます。

■投稿論文送付先

投稿論文送付先は、変更になっておりますのでご注意ください。

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3
 日本赤十字看護大学
 日本看護歴史学会編集委員会
 鷹野 朋実

編集後記

北朝鮮と韓国の南北首脳会談、米朝首脳会談は、非核化や平和につながるのだろうか。毎年、洪水や地震などの災害に脅かされる人びとの暮らし。本学会で果たすべき役割は何か。(み)

日本看護歴史学会会報 第70号

企画・編集 小田 正枝（徳島文理大学名誉教授）
 三上 れつ（中部大学）
 山崎 裕二（日本赤十字看護大学）

発行責任者 加藤 重子（事務局会報担当）

印刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒737-0004
 広島県呉市阿賀南2丁目10-3
 広島文化学園大学看護学部内
 加藤 重子/岡田 京子
 TEL 0823-74-6000（代表）
 FAX 0823-74-5722
 e-mail katoi@hbg.ac.jp

学会 HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>